

シェイクスピア原作『ザ・テンペスト』による

新作能 おお 大あらし

宗片邦義作 (2018.8)

Noh: The Tempest

By MUNAKATA Kuniyoshi

The Tempest is the last play Shakespeare wrote in its entirety. Hazlitt called *The Tempest* one of the most original and perfect of Shakespeare's productions. *Noh: The Tempest* attempts to explore as a Noh play Shakespeare's final views on human conditions, their societies, and the works of great Nature.

【構想】シェイクスピアひとりの筆になる最後の作とされるこのロマンス劇もしくは悲喜劇を、一時間の能にどうまとめたものか。彼の間観や世界観・宇宙観また演劇観をどう受け止め、どう表現するか。これらを課題に製作する。また能形式にこだわらず、能にまったくなじみのない観客にも分かり易く楽しめる台本・演出をモットーとする。

所・・・孤島

時・・・一六世紀

曲柄・・・四番目 (現在物)

登場人物

シテ・・・プロスペロー (ミラノ公国の正統な君主。十二年前、弟に公国を追われ、以後たどり着いた孤島に娘と共に住む。魔法の法衣・杖あり)

ツレ・・・ミランダ (プロスペローの純真無垢な娘。十四歳)

ツレ・・・エアリエル (空気の精。人の目に見えず自由に飛び回る。子役にても)

ツレ・・ファーディナンド（ナポリ王の息子、王子。大あらしで
孤島に漂着し、ミランダを見初める）

間（アイ）狂言・ゴンザロー（ナポリ王の老顧問官。清廉潔白

の人物。プロスペローを尊敬）

地謡（三名）、囃子（笛・小鼓・大鼓（おおつづみ）・太鼓）

前場（大あらしとその直後）

「冒頭、突如、笛ト大鼓ニヨル雷鳴・稲妻を伴ウ猛烈ナ「あらし」。
ヤガテ橋掛リニ、シテ（プロスペロー）トツレ（ミランダ）現レ、
舞台上ノ「あらし」ヲ見テ問答。囃子抑エ」

詞
ミランダ「お父上。海上に荒れ狂ふあのあらしが」父上の魔術に
よるものなら。（その魔術にて）早く「鎮めてくださいませ。
お船が海に」飲み込まれてしまいきう。あのような見事なお
船には定めし「立派なお方がお乗りのはず

プロスペロー「すべて手筈は」整へてあり。心配は「無用の事よ
ミラ「私に」神の力ありせば。あの荒海を大地に」沈めてしまいま
すものを

「再ビ「あらし」。ヤガテ鎮メ」

プロ「娘よすべては」お前のため。お前はまだ私が「何者かを知ら
ず「それを知らせる時来たれり 「橋掛り、一ノ松」

わしはこの見るかげもなき岩屋の主にはあらず。真はわれは
ミラノ公爵 「ヤガテ舞台ニ入ル。囃子抑エ」

拍合・ツヨ

地

「真はわれはミラノ公爵。ミラノ公国の君主たりし。民の

幸せの為。人の模範たるべく。仁徳による政治。学問芸術を

愛し。哲学宗教天文研究。政治の実務はすべて弟に任せたり

プロ「さればその信頼が仇となり 地「弟わが権力を笠に着て。

請願の許否のみならず、わが任命せる役人解任。彼が腹心を

任官させ。正に独裁者。偽りをも真と。民を欺き。つひには

ナポリ王と陰謀計り。われをミラノより追放せる

プロ「娘よわしはお前と」二人きり。小船にて辿りつきしが「この

孤島。お前はまだ「三歳にもならず

ミラ「父上には私の為に」どんなにかご苦労を。想へば涙が「こぼ
れます

プロ「幸ひナポリ王の顧問官」ゴンザーロー殿が。身の回りの物

とわが秘蔵の「書物とを。秘かに船に」乗せてくれ

ミラ「何と優しい」お方

不台・ツヨ

地

「巡り来たりし十二年目。秘術の研究実りしか。この大あ

らし。ナポリ王とわが弟の一味とを。この孤島におびき寄せ

プロ「されどこれは復讐にはあらず

地「目に見えぬ因果いんがの法則。自然の理法。星めぐり。大自然の理

法なり

プロ詞「それまたいずれ話すべし。いまはこれにてお休みなさい

「ミランダ眠ル。枕扇」

地次第ヨリ「朝な夕なまぐらべの枕辺まくらべに。朝な夕なまぐらべの枕辺まくらべに。真実まことの世界あの現れて

ませ

プロ詞「目に見えぬ空気の精霊・エアリエル」現れよ

「招キ扇。エアリエル橋掛リヨリ走りクル」

エアリエル「ご主人様いかなる御用ごよいも」御意ごいのまま。雲に乗り風
に乗り「飛び回ります。火の精・水の精共々すべては」お
心のままに

プロ「わしが命じたすべてその通り」果たせるか

エア「ひとつ」残らず。雷鳴・稲妻たけ・猛り狂おおう「大あらし。海神かいじんが」
驚くほどに

プロ「だが船上の人は」すべて安泰あんたいか

エア「一人残らず。ナポリ王子は一人」島の外れに引き離し

プロ「よくやった。さればナポリ王子にわが娘みを「見初みめさせん

とよ

「ミランダ舞台中央ニ残シ、プロス。ペロトエアリエル、地謡前へ

控エル」 「ヤガテ笛ト小鼓、静カナ妙ナル音楽。

橋掛リニ、ファーディナンド、シズカニ登場」

エア ヨワ・シメヤカニ 「そなたの父は海の底。五尋ごひろの深い海底かいていに。

骨は珊瑚さんごに変へられて。目はきれいな真珠しんじゆとなり。

ひとつも朽ちるものはなく。海の女神めがみの力にて。

すべて宝に変えられたり

地「海の精霊せいれい。弔とむらひの鐘。ディンドンベール。ディンドンベール

フア 詞 「あの「美しい音楽は。空からまたは「大地から。この島の「

神に捧げる音楽か。父ナポリ王の死を嘆くわが悲しみを「鎮しずめてくれる。この世のものとは「思はれぬ

プロ「娘よ目を覚まして「あれを見よ 「ミランダ目ヲ覚マス」

ミラ「あれは妖精ようせいかしら「立派なお姿

プロ「あれは難船なんせんせる「人間の一人よ

ミラ「いえ」神様に見えます。人間があればほど「気高く見えると
は

フア「あの美しい」音楽は 「ミランダニ気付き」あの女神に捧げ
る」音楽か 「舞台ニ入り」

あなたは「この」島のお方ですか。人間の娘ですか「不思議な
お方

ミラ「不思議の者には」ありません。「人間の娘です

不台・ヨロ

フア「私はナポリ王の息子。父王亡くなり今は。ナポリ最高

の身分みぶんの者

ミラ 「あなたは私がお慕ひする。初めてのあなた

ファ 「それが真なら。わがナポリの王妃にお迎へ致したく

プロ 「二人とも一目見て」たちまち目と目を交はしおつた

「シテ、立チ上ガリ」 「いや待て。娘はわが宝

「アイ狂言、目立タズ狂言座」

地 「手軽に得たる宝をは。手軽に得たる宝をは。人は手軽に扱

うもの。そなたにはまだ試練あり。若者よ。先ずは働くべし。

人の為に何が出来るか。その力を見せ給へ。愛・献身・忍耐・

努力。手軽に得たる宝をは。人は手軽に扱うもの。そなたに

はまだ試練あり

プロ 「使命ある者に試練あり。使命ある者に試練あり

「プロスペロー、ミランダ、続イテファーディランド、橋掛りへ。」

ファ 「日に一度あの娘の顔が見れるなら。いかなる試練も辛か
らず 「中入り

間（アイ）語り 「アイ、狂言座ヨリ舞台ニ入り」

アイ（ゴンザロー） 「これは、ナポリ王の顧問官にて、ゴンザ

ローと申します。先ほどのあらしに至るまでの顛末を、お
話し致したく存じます。

ミラノ公国のプロスペロー公爵は、国民を愛し慈しむこと、わがナポリにまでも聞こえしなり。また学問芸術・天文魔術の研究に没頭され、君主に徳あれば民これに倣ふと。かくて政務はすべて弟君に任せられ。ところがこの信頼が、仇になったのでございます。

弟君は次第に独裁者となり、自ら君主たらんと、わがナポリ王と結託し。兄上を未だ三歳にもならぬ一人娘と二人だけ帆船に乗せ、さる港より出航させてしまはれた。(私はその時お二人の身の回りの物と秘術の本を、秘かに船に乗せるのが精いっぱいございました。)

幸い船はこの孤島に漂着。以後プロスペロー殿は十二年間、この孤島にて姫と、生き永らへられたのでございます。

否それどころか、長年研究されたる秘術により、この孤島に生息する生物や、空気や水や大地の精霊を巧みに操り、獰猛なる怪物たちをも手なづけ、かくして十二年目に、あらしを起こし、弟君とナポリ王とをこの孤島におびき寄せ、船を難破させたといふ次第です。

これは復讐にあらず、秩序の回復、即ちミラノへ帰ること

を神の御心みこころと思召おぼしめされ、またその為にナポリ王子を娘に出会
はせられた。

思ふにプロスペロー殿の秘術とは、天地の律法りっぽうすなはち神
の御心みこころ。もしくは目に見えぬ大自然または宇宙の法則、それ
を会得えとくせられたものと存じまする。

プロスペロー殿を深く尊敬申し上げます私の、これまで知
り得ましたおおよそのことを申し上げさせていただきました。

「狂言座へ、マタハ入ル

後場

「プロスペロー、ミランダ、ファージェイナンド、エアリエル登場」

詞「過酷かこくなる試練はまた」愛情を試すもの。「よくぞ耐へたり。

さればわが宝を「遣つかはさん

地「天あまが寿ことほぐ聖なる婚こん礼れい。さればその前に邪よこしまなる行おこなひは許されず。

結むすびの神の御心みこころに従したがひ。聖なる結婚の楽しみを。欲情により
乱みだすはならず

フア「わが夢は。平和なる日々と頼たのもしき子孫。さらに長命。生
涯この愛情を持ち続けます

地「それは誓ひの言葉ぞよ。誓ひの言葉に背そむくはならず

プロ「さればエアリエル。妖精たちを呼び給へ

エア「豊穰ほうじょうの女神めがみよ。大空おほそらの妃みまよ。七色なないろの虹にじのアイリスよ

地「もろもろの精霊せいれいたちよ。いざ来れ。聖なる結婚けっこんに祝福しゅくふくを

「エアリエル、祈いのちり」

ファ「これは奇跡きせきか天国てんごくか。夢ゆめか現まじろか幻まぼろしか

「ファーデイナンド、ミランダ、祝言いわげノ相舞あひまひ、

華はなヤカニ短みづかカメニ」

プロ詞「よくできたるぞ」妖精ようせいたちよ。よしよしこれにて「消え失せ

よ」驚おどろきたるか」息子こゝろと娘むすめよ。先ほどの妖精ようせいたちはみな大

気きの中に「溶とけてしまひたるよ

地合・ヨロ「この世のすべては形かたちある。この世のすべては形かたちある。

いづれも溶とけて消え失せる。人間の。ささやかなる一生いっせいは。

眠りによって輪りんを閉ぢる。この世のすべては夢ゆめ幻まぼろし

プロ詞「さて難破なんぱせるナポリ王おうとわが「弟あには

エア「一つ所ところにて「身動みぶきできず。「悲嘆ひたんにくれ。激げきしく前非ぜんびを悔く

いてをりまする

プロカカル「愚おろかなる者ものよ。汝なんぢの名なは悪人あくにんなり

地合・ツヨ「愚おろかなる者ものよ。汝なんぢの名なは悪人あくにんなり。他人ひとを殺ころさんと企たくてし。

人道に悖る罪。運命の神は忘れはせず。昔犯せる大罪が。今やその身を蝕まん。自ら蒔きし種なれば。自らそれを刈り穫るべし。因果応報。悪因悪果。良心の呵責に苦しむべし

プロ「幸ひなるかなかの悲劇 地「恐怖の海と呪へども。

眞実は慈悲の海なりし。試練のあらしなりけり

プロ「もう皆 放免してやるべし。赦しは「和解の始めなる

地「赦しは和解の始めなる。復讐に勝る気高き行為

プロ「わしは魔法の「法衣を脱ぎ。魔法の杖を「大地に埋め。ミラ

ノ公に「戻るべし

「エアリエルよそなたもこれにて「自由の身

(「エアリエル、橋掛リヨリ飛び去ル」モ)

「ゴンザロー、プロスペローノ前ニ出

ゴンザ「されば身共も共に「自由の身となり申したく

プロ「ゴンザロー殿そなたは「ナポリ王の顧問官。わが命の「恩人

よ。徳高き「高潔の士。そなたの云はれる自由の身とは「いかなるものぞ

ゴンザ「われもし自由の身「なりせば。われこの孤島に「残らんか

「われもし孤島の主なりせば。すべての営み逆さまに

「先ずお金をはじめ金銀宝石をすべて」無価値に致します。

私有財産を持つものは」悪徳をなせる証拠。個人の繁栄で

はなくて公共の繁栄」コモンウェルスを追求します

「利己主義者はすべて投獄。労働に従事。正義と公正達成さ

れ。貧者もなければ長者もなし

「万人に生涯の」豊かな生活を保障します

「戦争戦闘野獣的行為。一切禁止。他国との同盟すべて不要

「自然の情・人間本来友愛精神」これぞ最も強固な同盟

プロ「さて」食糧は

ゴンザ「食物は自然の恵みに手を加へずも」五穀豊穰 「人はみ

な男も女も純真無垢。天地自然に逆らはず。ゆくゆくは法律

無用。地上の天国さらに来世の幸せを願ふなり

ミラ「素晴らしき新世界。美しきかな人間

(ミランダ、短ク舞ウモ)

詞
プロ「ナポリ王老顧問官」ゴンザーロー殿。わが命の「恩人よ。

共に故国ここくに帰りてさらにそなたのユートーピア論を「拝聴せ
ん

キリ

地ノル「またはまたは。汝ひとりを残してわれらは故国ここくへ帰るべきや

プロ「さればされば」 「プロスペロー、舞ウモ」。

地なむ「汝ひとりを残してわれらは故国へ帰るべきや

プロ「われはこれにて魔法まほうの杖折つえり大地うずに埋め

地「魔法の杖折り大地に埋め

プロ「法衣ほういを脱ぎ捨て

地「法衣を脱ぎ捨て。いざや故国へ帰らんや。

いざや故国へ帰らんや。民待たみまつ故国へ。民待つ故国へ
帰らばや。民待つ故国へ帰らばや。民待つ故国へ帰
らん

「プロスペローヲ先頭ニ入ル。

(最後ニ、離レテ、ゴンザーロー入ル)